

平成年 5 月 1 3 日
校長 川畑孝久

仙台・三陸・気仙沼・陸前高田の復興・復旧の視察から（報告）

はじめに

今回の視察の目的は、下記の 2 点にあるが、そもそものきっかけは、当時、気仙沼市立大谷小学校の校長であった藤村俊美校長が異動し、畠山雅宏校長が着任されたことにある。そのために本校としての今後の支援のあり方を確認する必要があったからである。

1 視察期日 平成 25 年 5 月 9 日（木）～5 月 11 日（土）

2 支援をすることになった経緯

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災は、青森・岩手・宮城・茨城・千葉に大きな被害をもたらした。連日ボランティア募集の報道がある中で、宮城県気仙沼市大谷地区に要請があったボランティア団体「アクティブ」に本校職員 3 名が参加した。

5 月 2 日～5 月 5 日、大谷公民館に避難していた約 190 名の被災者への炊き出しと片付け作業に従事する傍ら、校内で集めた生活支援物資と学用品を提供した。学用品は、大谷公民館の前にある気仙沼市立大谷小学校に提供した。これまで本校は、日本赤十字やあしなが育英会に義援金を送ってきたが、子供たちには「見える形の支援」が必要であるとの考え方から、24 年度から大谷小学校への支援をすることにした。

二小 P T A も、当初福島市と気仙沼市に義援金を送っていたが、平成 25 年度から、大谷小 P T A にピンポイントで支援をすることになった。

3 被害状況

地震発生時、215 名児童と 18 名の教職員は校庭に避難。津波が来ることを察知し高台にある大谷公民館に避難。子供たちは、迫り来る津波の様子を目の当たりにした。大谷小学校の被害は、校庭 30 cm の浸水と校舎・体育館の 1 階が浸水。学校関係での死者は、帰宅していた 1 年男児とその妹と祖母の 3 名。全壊流失家屋は、全児童の 40 %。

4 現在の大谷小学校の状況

現在児童数 198 名。校庭に仮設住宅 186 戸が建設されている。離住者は現在 4 戸。仮設住宅から登校している子供は 33 名。全ての家財や家屋が流失しているために帰宅ができない状況にある。仮設住宅にいなくてもきょうだいや親戚に身を寄せて暮らしている家庭は大谷地区の 60 % に上る。仮の校庭は、北側の水田を借用している。（二小の約 3 分の 1）北側には、プールと体育館、環境教育を研究しているために学校ビオトープがある。

5 目的

(1) 宮城県仙台市・名取市・三陸町・気仙沼市・陸前高田市の復興・復旧の現状

仙台市・名取市の海岸線は、防潮堤のかさ上げ工事中であった。今後どこまで堤防を上げるのか。景観はどのようになるのか。ここに住む人々は大きな課題を負う。海岸線にあった住宅はまだ基礎だけが残った状態。住宅建設の兆しはまだ見られなかった。水田もまだ休耕地。一部、既存の水田の表土をはぎ取り、客土を入れる作業が見られた。26 年度の耕作を目途に工事を進めているという。

主要道路は、復興・復旧の関係の工事車両が頻繁に走っている。気仙沼線には仮復旧として、「バスの高速輸送システム」B R T（バス・ラビット・トランジェット）が運行を開始していた。

(2) 大谷小学校及び大谷小 P T A への今後の支援のあり方検討情報

①支援の形 「見える形の支援」「支援先を決めてピンポイントの支援」「お互いの言い合える関係」「できることをできるだけ無理のない継続的な支援」

②教育活動を支える形での支援 「海拔表示ステッカーの取り付け資金」「スローガン横断幕の更新のための資金」「校庭の手入れ資金」など

③ P T A 行事への支援 「虎舞保存活動助成金の一部」「大谷スクールバスの運行費用の一部」「大谷こども基金」など *今後自校で検討し大谷小と相談する

6 気になる話

(1) 国で集めた義援金はどこに？

気仙沼大島に寄せられた義援金の行方は？避難所元締めが東京のマンション購入

(2) 18mの防潮堤 景観か防災か

(3) 気仙沼港 5年先に町作り かさ上げ80cm 商店は奥地に開店

7 所感「耳に届いたことば」

*滞在中に耳にした言葉

被災地は、どこもかしこも復興・復旧工事が始まったばかり

主要道路は、工事関係車が頻繁に走り 農業・商業・中小企業は止まったまま

元あった住宅地は基礎のまま 全てがあの日 3.11から止まったまま

生き残った人たちは、片付けにかり出され、復旧・復興工事にかり出されている

これまでしていた仕事も道具も流された 道具を買うお金はない

娘が東京の学校に行くと言うから工場を建てるのをあきらめた

そんな人たちに「頑張ってください」とは言えない

なぜなら、これまでも頑張ってきてきたから

これ以上もっと頑張れと言うのかと言われそうだから

子供たちに「あなたの夢や希望は？」と、聞きにくい風が吹いている

家に帰るとお父さんがうつむいている

そんな父さんに進学したいとは言えない

僕の夢は…と、明るい顔などしては言えない

家のある子供と家のない子供

親のある子供とない子供

仮設にいる子供といない子供

家族を亡くした子供と全員無事だった子供

そんな中だから、地域では、もう津波の話はしたがらない

子供だってストレスがたまるんだ

昼休み、津波遊びをしていたら、先生に大きな声で怒られた

じゃ何して遊んだらいいの？ テレビゲーム、読書…

外で元気に遊べって？ できないよ

津波は執拗にも何回も何回もやって来て、

生きる者と生きない者を勝手に分けた

人の一生を二分し、あらゆる物を持ち去った

津波はまだ謝らない 言い訳もまだしない

津波ってどこまでふてぶてしいんだ

津波の野郎 畜生！

「これで東海地震が来れば、こちらは忘れ去られる」と

ポツンと話した前 P T A 会長の言葉が妙に引っかかった